

南軽便鉄道で下り、那賀川を岡まで岡田式渡船で渡り碓で待機していた親戚と阿南自動車に移り帰路についたが、星越峠のぼり切れず人だけ降りて後から押すという一こまもあり岡の渡場から牟岐まで約三時間かかった。海部郡内に初めて乗合自動車の営業を始めたのは、阿南自動車協会で大正七年に日和佐まで十一年五月に大里まで大正十三年一月から甲浦まで延長した。車は一六人乗りの普通乗用車で牟岐停留所は渡部弘世氏方に置いた。

2 海部公営自動車

大正十一年末当時の郡長永井末之進の発案で郡費一五五、〇〇〇円と郡内各町村負担金とを以て海部郡町村自動車公営組合を創立、大正十二年三月九日知事の認可を得事務所を日和佐町桜町に新築（現ユースホテルに改造）星越―甲浦線・日和佐―川口線・日和佐―由岐線・奥浦―皆瀬線の四路線について営業を開始した。牟岐営業所は渡部方に置き北隣に車庫を設け運転士や車掌の宿泊設備もあった。昭和十五年五月から阿南自動車と営業区域を星越峠までとする協定を結んで競争を避けたのである。その後国鉄牟岐線の開通にともない乗客の便利をはかる為駅前通りに営業所を設けた。昭和十八年に徳島バス株式会社へ権利を譲渡し解散したが、長く郡民に親しまれた。

(四) 鉄 道

国鉄牟岐線 牟岐線が開通したのは昭和十七年七月一日で昭和十二年に阿波福井まで昭和十四年には日和佐までと段階的に羽ノ浦より延長されたので、それまでは牟岐以南の貨客はバスやトラック便で福井駅や日和佐駅まで中継した。開通当時牟岐駅は町外れの田圃の中にあり淋しかったが、終着駅のこととて乗降客や貨物の発着多く駅前には順に発展するようになった。尚列車も八六二〇の蒸気機関車で上り下り共福井駅で給水の為一〇分間位停車したもので、スピードも遅く牟岐―徳島間普通列車で三時間半位要した。昭和三十七年準急、二年後急行も走るように改められた。昭和四十五年頃から漸次車輛をディーゼルに切り替え無煙化し、急行の本数も増しスピードアップし今や徳島へ

急行で一時間半余りで往けるようになった。町内には牟岐駅と辺川駅とがあり最初辺川駅に助役と駅員一人とが常勤していたが、合理化により今では無人駅になっている。（昭和四十六年）年間の乗降客は約九二万人であり昭和四十七年より阿佐東線につながる工事が進められた。牟岐駅の開設当時四時間余を要した蒸気機関車と、運賃料金一円四〇銭であった頃を思えば雲泥の差である。

昭和四十八年十一月一日から牟岐駅より海部町まで一一・六キロメートル延長されることになった。

国鉄が唯一の交通機関であった時代も時の移り変わりと共に、徳島・牟岐間七八・二キロメートル（徳バス路程）の国道五五号線も整備し、昭和四十八年度には完全舗装され、難所といわれた星越峠も隧道による近道、幅員の拡大等で次第にマイカー族が増加し、利用度も増加の一途をたどり、所要時間もラッシュ時をよければ二時間足らずで着くという便利さとなった。

徳島駅―牟岐駅 運賃料金の推移

年 度	運 賃 料 金
17年 7月	1円40銭
19. 4	1. 70
20. 4	2. 00
21. 3	5. 10
22. 3	6. 50
22. 7	23. 80
23. 7	61. 20
24. 5	69. 00
26. 11	126. 00
28. 1	143. 00
32. 4	160. 00
36. 4	190. 00
41. 3	250. 00
44. 5	280. 00
48. 3	280. 00

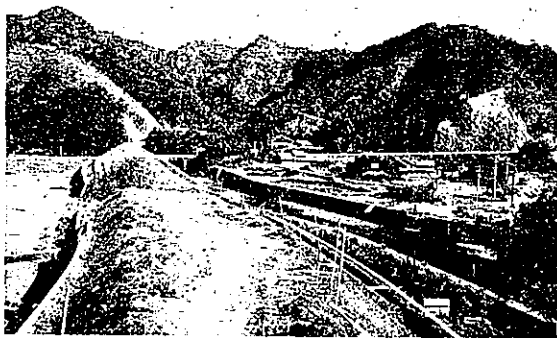
昭和48年 8月調

阿佐東線 徳島―高知間を結ぶ（海岸沿いに）国鉄阿佐東線の中牟岐町と海部町間の建設工事が昭和四十八年秋の開通を目指して進められ、国鉄牟岐線が開通してから三十一年ぶりに線路が南に伸び待望久しい列車が通ることになった。同線は四国循環線の一つとして昭和四十年春日本鉄道建設公団阿佐東鉄道建設所Ⅱ谷実男所長が牟岐から海部まで一・六キロの延長工事にかかったものの、赤字線の廃止問題にひっかり一時成り行きが心配されていたが、列島改造論で日の目をみた、同区間には鯖瀬・浅川・海南・海部の四駅ができた。コースが山間と海岸線だけに山田トンネル（延長六二〇メートル牟岐町中村）を含む大小二〇のトンネルのほか、海南町四方原―海部町奥浦間一・三キロは高架になっており、最も長い海部川鉄橋（長さ三八〇メートル）四方原トンネル（長さ五六メートル）海部トンネル（長さ四四メートル）がある。

（六）他町村との交通

1 日和佐との交通

日和佐は古くから薬王寺詣りの関係で少年の時から牟岐の人は日和佐へよく徒歩で往復したもので、藩政時代末期には郡代官所があり、明治・大正・昭和と郡役所・地方事務所などの県の出先機関が設置されていたので公務による交流機会も多く、地理的にみて木頭山分への要路でしかも隣接地である。それで牟岐との交通関係は深い。県道が通じ交通機関が発達していなかった時までは、辺川から近道を寒葉の峠へ出て、トントン打越を過ぎ、山河内小学校の東から山裾を縫って登ると「よここの峠」に達す。ここには水落



牟岐駅から南にのびる阿佐東線